

第10期 事業報告

〔 2019年4月1日から
2020年3月31日まで 〕

アナグラム株式会社

1. 会社の現況

(1) 当事業年度の事業の状況

① 事業の経過及び成果

当社では、「マーケティングを通してより豊かな未来を創造する」を企業理念に掲げ、運用型広告の運用、コンサルティングサービスを提供してきました。当社がこれまでに請け負い、蓄積した膨大なデータとそのノウハウをもとに、ターゲットユーザーに対して適切な情報を適切なタイミングで適切なデバイスに提供することで多くの企業の成長に寄与し、その結果、継続率の高いサービスを提供し続けることができています。また、営業面において当社はオウンドメディアからの問い合わせのみで成り立っている為、価格優位性があります。

各媒体とも良好なリレーションを構築しており、その関係を活かし連携させることで、より優れたパフォーマンスを提供することが可能となっています。今期は人員数及び組織的な管理体制の両面で強化を行い、既存取引先へのサービスの強化に注力してまいりました。

この結果、当事業年度の業績は、売上高 1,142,568 千円（前期比 42.6%増）、営業利益 527,071 千円（前期は営業利益 285,411 千円）、経常利益 528,707 千円（前期は経常利益 309,300 千円）、当期純利益 334,930 千円（前期は当期純利益 212,056 千円）となりました。

② 設備投資の状況

当事業年度における設備投資の総額は、3,118 千円で主にパーソナルコンピューター等オフィス内の器具備品の購入によるものであります。

また、当事業年度中に 3,866 千円で社用車を売却しております。

③ 資金調達の状況

当事業年度中に、既存金融機関からの借入金の借り換えとして株式会社フィードフォースより、短期借入金 700,000 千円の資金調達を行いました。

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第7期 (2017年3月期)	第8期 (2018年3月期)	第9期 (2019年3月期)	第10期 (2020年3月期) (当事業年度)
売上高 (千円)	367,309	591,202	801,120	1,142,568
当期純利益又は 当期純損失 (△) (千円)	72,406	152,464	212,056	334,930
1株当たり当期純利 益又は1株当たり当 期純損失 (△) (円)	72,406	152,464	212,056	334,930
総資産 (千円)	750,648	1,173,632	1,942,110	2,528,393
純資産 (千円)	264,126	416,591	628,646	963,576
1株当たり純資産 (円)	264,126	416,591	628,646	963,576

(3) 対処すべき課題

当社の対処すべき主な課題は以下のとおりです。

① 新規ビジネスの創出と顧客基盤の拡大

当社は、創業以来、運用型広告領域において様々なアプローチを試み、既存顧客の満足度を高めてまいりました。今後も競争優位性を確保し長期的に成長し続ける組織であるためには、既存サービスの質の改善に加え、それらを取り巻く環境での新たなビジネスやサービスを創出することが極めて重要であると考えております。将来的には運用型広告以外でのサービス展開を図ることで、未来の収益の柱を育てるべく尽力してまいります。

② 人材の確保と育成

当社が今後更なる事業を拡大していくためには、優秀な人材の確保と育成が必要不可欠であると考えております。特に、優秀なマーケター、デザイナーの採用は、他社との獲得競争が激しさを増す昨今の状況を鑑みると、継続的な課題と認識しております。これら

の課題に対処するために、当社は、知名度の向上、研修制度の強化、福利厚生の充実を図り、優秀な人材が長期に渡ってやりがいを感じて働くことができる職場環境の整備を進めるとともに、採用活動の柔軟化により適時な人材の確保と育成に努めてまいります。

③ 認知度の向上

当社は、これまでオウンドメディアに注力し、近年は各種 SNS を通じて新しいマーケットの創出を図ってまいりました。その結果、現在、幅広い業種、企業に当社サービスを導入頂き、継続的な取引による確固たる顧客基盤の構築を実現することが出来ていると考えております。しかしながら、既存事業の更なる拡大を図るためには、当社及び当社サービスの認知度を向上させ、新規案件を獲得していくことが重要な課題であると認識しております。今後はさまざまなチャネルでの販売促進活動に積極的に取り組み、認知度の向上を図ってまいります。

④ 内部管理体制の強化

当社が今後更なる業容拡大、継続的成長するためには、リスク管理体制の強化と、確固たる内部管理体制構築を通じた業務の標準化及び効率化の徹底が重要であると考えております。当社としましては、更なる内部管理体制の強化によって、より一層のコーポレート・ガバナンス機能の充実を図り、経営の公正性・透明性の確保及び企業価値の最大化に努めてまいります。

(4) 主要な事業内容

① リスティング広告運用事業

- (ア) インターネット広告の運用並びに報告レポートの作成及び報告
- (イ) 広告運用業務の技術的なサポート
- (ウ) インターネット広告運用の施策提案
- (エ) インターネット広告運用のマーケティング施策の企画及び実施
- (オ) インターネット広告運用に係る営業活動

② マーケティング支援事業

- (ア) マーケティングの戦略立案及び支援
- (イ) マーケティングの広告運用の施策提案
- (ウ) マーケティングの広告運用のマーケティング施策の企画及び実施
- (エ) マーケティングの広告運用に係る営業活動

(5) 主要な営業所（2020年3月31日現在）

本社 東京都渋谷区

(6) 使用人の状況（2020年3月31日現在）

使用人数	前事業年度比増減	平均年齢	平均勤続年数
41（13）名	2名増（9名増）	28.9歳	1.8年

（注）使用人数は就業人員であり、臨時従業員（アルバイト、契約社員、人材会社からの派遣を含む）は、（）内に外数で記載しております。

(7) 主要な借入先の状況（2020年3月31日現在）

借入先	借入残高
株式会社フィードフォース	700,000 千円

2. 株式の状況

(1) 発行可能株式総数 5,000 株

(2) 発行済株式の総数 1,000 株

(3) 株主数 3 名

(4) 大株主

株主名	持株数	持株比率
株式会社フィードフォース	501 株	50.1%
阿部 圭司	449 株	44.9%
岡田 吉弘	50 株	5.0%

3. 新株予約権の状況

該当事項はありません。

4. 会社役員 の 状況

(1) 取締役 の 状況 (2020 年 3 月 31 日現在)

会社における地位	氏名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	阿部 圭司	
取締役	塚田 耕司	(株)フィードフォース 代表取締役
取締役	西山 真吾	(株)フィードフォース 取締役
監査役	岡田 吉弘	LIFT 合同会社 代表社員 (株)フィードフォース 取締役(監査等委員)

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第 427 条 1 項の規定に基づき、取締役（業務執行取締役であるものを除く）との間において、同法 423 条第 1 項の損害賠償について、あらかじめ定める金額又は法令が定める額のいずれか高い額を限度として責任を負担する契約を締結することができる旨を定款に定めておりますが、当社は責任限定契約を締結しておりません。

(3) 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等

区 分	員 数	報酬等の額
取締役	3 名	75,000 千円
(うち社外取締役)	(2 名)	(-)
監査役	1 名	9,600 千円
(うち社外監査役)	(0 名)	(-)
合計	2 名	84,600 千円
(うち社外役員)	(0 名)	(-)

- (注) 1. 取締役の報酬限度額は、2018 年 5 月 28 日開催の定時株主総会において、年額 100,000 千円以内と決議いただいております。
2. 合計欄は実際の支給人数を記載しております。

(4) 社外役員に関する事項

① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・社外取締役 塚田耕司氏及び西山真吾氏は、(株)フィードフォース取締役を兼職しており、当該兼職先は当社の親会社となります。

② 当該事業年度における主な活動状況

	出席状況及び発言状況
社外取締役 塚田 耕司	当事業年度に開催された取締役会 2 回のうち 2 回出席いたしました。主に企業経営者としての経験と知見に基づき、取締役会の意思決定の妥当性及び適正性を確保するため、適宜発言を行っております。
社外取締役 西山 真吾	当事業年度に開催された取締役会 2 回のうち 2 回出席いたしました。経営に関する専門的な知見に基づき、取締役会の意思決定の妥当性及び適正性を確保するため、適宜発言を行っております。

第10期 計算書類

〔 2019年4月1日から
2020年3月31日まで 〕

アナグラム株式会社

貸借対照表

令和 2年 3月31日 現在

アナグラム株式会社

(単位： 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	2,373,435,748	【流動負債】	1,564,816,746
現金及び預金	951,693,970	買掛金	659,335,792
売掛金	985,443,010	短期借入金	700,000,000
貸倒引当金	-2,188,780	未払金	7,584,909
前渡金	326,359,077	未払費用	6,425,596
前払費用	13,007,642	未払法人税等	155,809,300
未収入金	2,992,929	未払消費税等	20,816,600
未収消費税等	96,127,900	賞与引当金	9,003,423
【固定資産】	154,957,366	前受金	711,430
【有形固定資産】	34,752,260	預り金	5,129,696
建物附属設備	28,525,477	負債の部合計	1,564,816,746
工具器具備品	6,145,873	純 資 産 の 部	
一括償却資産	80,910	【株主資本】	963,576,368
【投資その他の資産】	120,205,106	資本金	10,000,000
投資有価証券	14,073,265	利益剰余金	953,576,368
出資金	3,787,382	その他利益剰余金	953,576,368
敷金	20,262,815	繰越利益剰余金	953,576,368
差入保証金	40,000,000	(うち当期純利益金額)	334,929,952
長期前払費用	125,000	純資産の部合計	963,576,368
繰延税金資産	16,307,305	負債及び純資産合計	2,528,393,114
保険積立金	25,649,339		
資産の部合計	2,528,393,114		

損 益 計 算 書

自 平成31年 4月 1日
至 令和 2年 3月31日

アナグラム株式会社

(単位： 円)

科 目	金 額	
【売上高】		
売 上 高	1,142,567,976	
売 上 高 合 計		1,142,567,976
【売上原価】		
当 期 製 品 製 造 原 価	376,775,477	
合 計	376,775,477	
製 品 売 上 原 価		376,775,477
売 上 原 価		376,775,477
売 上 総 利 益 金 額		765,792,499
【販売費及び一般管理費】		
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 合 計		238,721,266
営 業 利 益 金 額		527,071,233
【営業外収益】		
受 取 利 息	11,850	
受 取 配 当 金	2,000	
貸 倒 引 当 金 戻 入 額	4,287,000	
雑 収 入	1,400,653	
為 替 差 益	37	
助 成 金 収 入	5,310,000	
営 業 外 収 益 合 計		11,011,540
【営業外費用】		
支 払 利 息	8,147,936	
雑 損 失	4,730	
投 資 事 業 組 合 運 用 損	1,222,618	
営 業 外 費 用 合 計		9,375,284
経 常 利 益 金 額		528,707,489
【特別利益】		
固 定 資 産 売 却 益	1,297,313	
特 別 利 益 合 計		1,297,313
【特別損失】		
投 資 有 価 証 券 評 価 損	10,927,243	
特 別 損 失 合 計		10,927,243
税 引 前 当 期 純 利 益 金 額		519,077,559
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		200,454,912
法 人 税 等 調 整 額		-16,307,305
当 期 純 利 益 金 額		334,929,952

販売費及び一般管理費内訳書

自 平成31年 4月 1日
至 令和 2年 3月31日

アナグラム株式会社

(単位： 円)

科 目	金 額
役 員 報 酬	84,600,000
給 料 手 当	13,603,722
雑 給	642,030
賞 与	2,304,432
法 定 福 利 費	6,802,802
福 利 厚 生 費	6,245,445
採 用 教 育 費	20,513,439
広 告 宣 伝 費	7,851,284
接 待 交 際 費	9,319,318
会 議 費	2,067,612
旅 費 交 通 費	2,889,628
通 信 費	1,339,700
消 耗 品 費	5,907,104
修 繕 費	373,312
水 道 光 熱 費	345,801
新 聞 図 書 費	2,759,931
諸 会 費	1,458,090
支 払 手 数 料	18,005,303
地 代 家 賃	8,899,484
リ ー ス 料	187,200
保 険 料	9,585,928
租 税 公 課	2,301,680
支 払 報 酬 料	9,484,167
減 価 償 却 費	18,482,571
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	2,751,283
販売費及び一般管理費合計	238,721,266

製造原価報告書

自 平成31年 4月 1日
至 令和 2年 3月31日

アナグラム株式会社

(単位： 円)

科 目	金 額	
【労務費】		
給 料 手 当	205,456,112	
雑 給	1,975,416	
賞 与	31,927,413	
退 職 金	321,429	
法 定 福 利 費	35,072,831	
賞 与 引 当 金 繰 入 額	8,440,920	
労 務 費 合 計		283,194,121
【製造経費】		
旅 費 交 通 費	5,170,003	
修 繕 費	1,090,648	
水 道 光 熱 費	2,389,077	
地 代 家 賃	44,979,271	
支 払 手 数 料	4,093,279	
外 注 費	35,859,078	
製 造 経 費 合 計		93,581,356
総 製 造 費 用		376,775,477
合 計		376,775,477
当 期 製 品 製 造 原 価		376,775,477

株主資本等変動計算書

自 平成31年 4月 1日
至 令和 2年 3月31日

アナグラム株式会社

(単位： 円)

【株主資本】

資 本 金	当期首残高		10,000,000
	当期末残高		10,000,000
利 益 剰 余 金			
その 他 利 益 剰 余 金			
繰 越 利 益 剰 余 金	当期首残高		618,646,416
	当期変動額	当期純利益金額	334,929,952
	当期末残高		953,576,368
利 益 剰 余 金 合 計	当期首残高		618,646,416
	当期変動額		334,929,952
	当期末残高		953,576,368
株 主 資 本 合 計	当期首残高		628,646,416
	当期変動額		334,929,952
	当期末残高		963,576,368
純 資 産 の 部 合 計	当期首残高		628,646,416
	当期変動額		334,929,952
	当期末残高		963,576,368

注 記 表

アナグラム株式会社

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 建物附属設備については法人税法の規定による定額法
車両運搬具については法人税法の規定による定率法
一括償却資産については3年間の均等償却

無形固定資産 法人税法の規定による定額法

引当金の計上基準

貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、
貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し回収不
能見込額を計上しております。

収益及び費用の計上基準

収益については実現主義により、費用については発生主義により計上

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税の会計処理

消費税の会計処理は税抜方式によっている

貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 7,471,330円

株主資本等変動計算書に関する注記

当該事業年度の末日における発行済み株式の数 1,000株

一株当たり情報に関する注記

一株当たり純資産額	963,576 円 37 銭
一株当たり当期純利益金額	334,929 円 95 銭

監 査 役 監 査 報 告

第 10 期事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他取締役の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

監査役は、監査方針、監査基準を定めた上で、取締役、内部監査担当その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及びリモートワーク下における業務の状況及び財産の状況を調査いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 当社の内部統制に関する各種規定の設置および改正についての取締役会決議の内容は相当であると認めます。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類とその附属明細書は当社の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示していると認めます。

3. 追記事項

特になし

令和 2 年 5 月 2 8 日

アナグラム株式会社
監 査 役

岡 田 吉 弘

